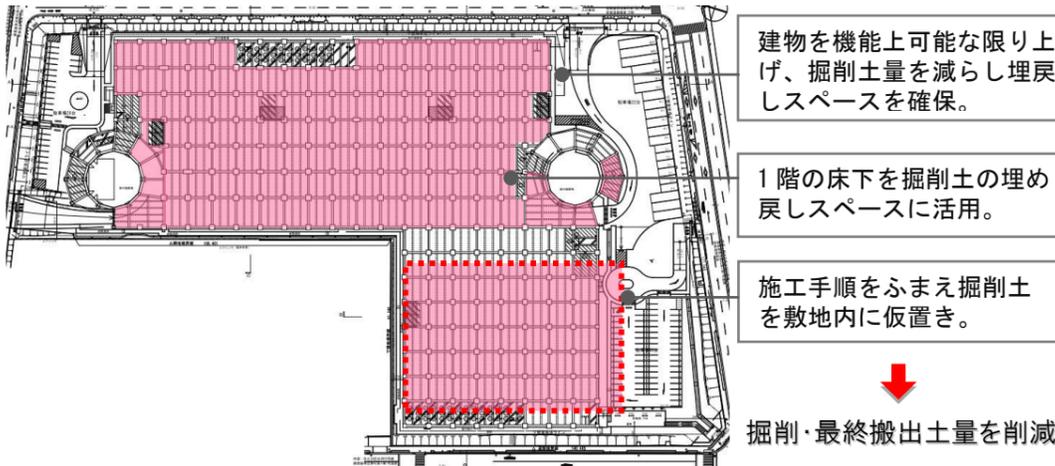


環境配慮事項とねらい

A | 環境負荷低減

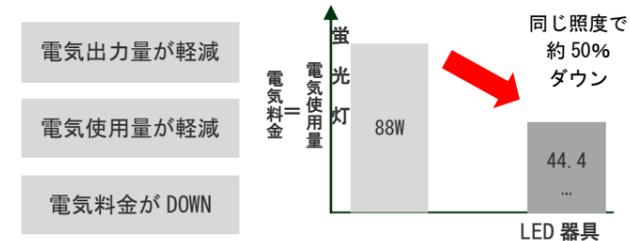
搬出土量の合理化

建物を機能上可能な限り上げ、掘削土量を減らし埋戻しスペースを確保。施工手順を踏まえ掘削土を敷地内に仮置きとした。設計 GL の設定とのバランスを考慮し、1階の床下を掘削土の埋戻しスペースに活用。最終搬出土量の削減に繋がっている。

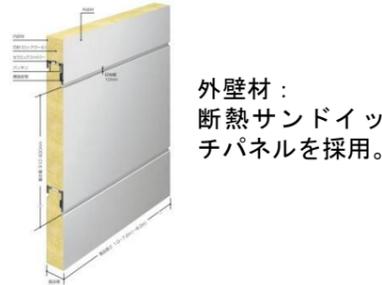


全館 LED 照明の採用

全館 LED 照明を採用した‘省エネ型物流施設’。従来の蛍光灯と同数の LED 照明で、倉庫内照度 平均 200Lx 確保。



断熱性能の確保



節水型便器と人感センサー



B | 地域への貢献と共存

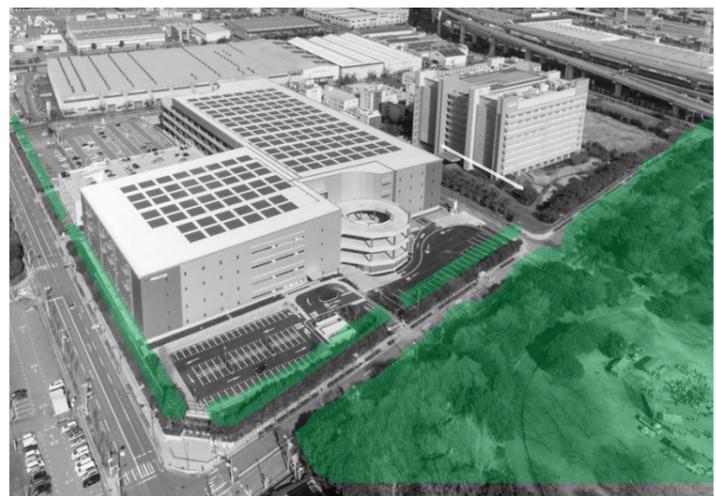
エネルギー供給に貢献する物流施設

屋根面のうち、約 14,000 m²に太陽光パネルを設置。発電出力は 1,228 kW を計画 → 年間推定発電量は 1,240MW h



既存植栽を温存活用し周辺環境と調和

隣接する中央公園や歩道の並木道には、咲洲地区が誕生してから継承している豊かな緑の文化が存在していた。地域が備えているポテンシャルを大切に、敷地内の既存樹木を極力保存した計画としている。地域が慣れ親しんだ環境を表出しており、周辺環境との調和を大切に植栽計画としている。

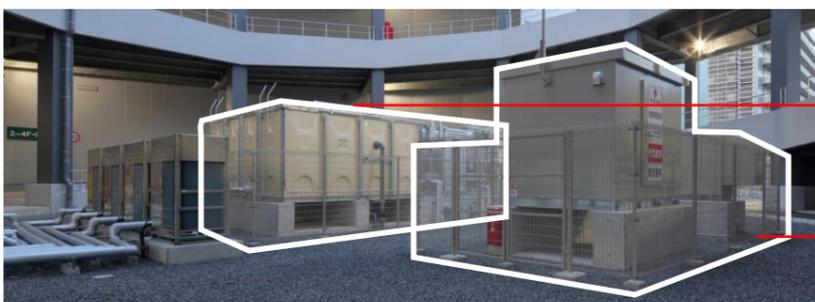


C | 地域特性に基づいた BCP 対応



咲洲地区の津波予測や避難所の受入態勢、阪神淡路大震災の復旧データなど、包括的に調査し、設計者のアイデアを基に BCP 対策を実施している。非常用発電機による停電対策や貯水タンクによる断水対策は、そのエッセンスに基づいて設定しており、物資備蓄の設定や施設内への避難者の受入態勢の設定も行っている。

災害時に備えた準備



雑用水タンク：
1階WC洗浄水を供給

災害対策用発電機：
管理室廻りの電源を供給



備蓄倉庫に 3 日分の物資を備蓄



緊急地震速報の対応



災害支援ベンダー



災害時のコアスペースの設定



衛生電話の設置